

つながる鎌倉エール事業報告

子どもがつくる ローカルマガジン 「ことこと」

NPO法人マナビノキ
地域のつながり課

事業概要

目的：鎌倉のプロクリエイターと地域情報誌を制作するという事を通して、
鎌倉の魅力に気づき、生涯にわたって鎌倉を大切にできる子どもたちを育む。

事業実施期間：2024年5月1日～2025年3月31日

協力者：鎌倉在住の編集者、ライター、カメラマン、イラストレーター

参加者：鎌倉市内の小中学生25名

活動内容：ワークショップ、取材活動、編集会議、冊子制作

成果物：ローカルマガジン「ことこと」Vol.2（3,000部）

活動報告

①プロクリエイターによるワークショップ



POPEYE編集長 町田 雄二さん



写真家 長野 陽一さん.



イラストレーター横山寛多さん.



ロゴづくり 坂本良弘さん

- ・ 実際の雑誌（POPEYE）を見ながら、雑誌の構成や作り方を学ぶ
- ・ 雑誌の中での「写真」の意味や役割、また人の撮り方を学ぶ
- ・ 写真ではなく、なぜイラストなのか？イラストにしかできないことを学ぶ
- ・ 唯一無二の「自分の名前」のロゴづくりを行う

プロによる講習によって、専門的なスキル、雑誌の作り方について実践的に学ぶことができた。また多様な生き方や働き方を学ぶ機会となった。

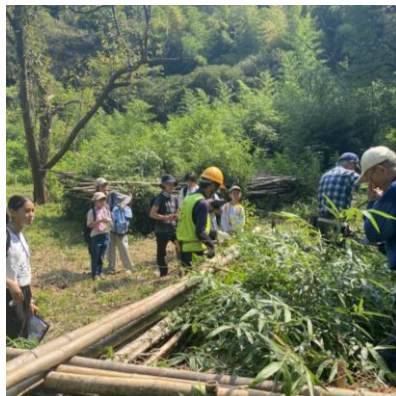
活動報告

②取材の様子

※取材先の選定において、市民団体や風致保存会など、地域のつながり課が間に入ってくれたことで円滑に取材を進めることができた。



風致保存会 石山さん



常盤山の会 山村さん他



大船軒 中井さん



レンバイ（鎌倉市農協連販売所）



円覚寺 内田住職



近代美術館 三本松さん



湘南モノレール奥沢さん



養老孟司先生

鎌倉の様々な場所を訪れ、鎌倉で働く大人の仕事や思いに直接触れることができ、子どもたち自身が鎌倉の魅力に気づくことができた。

活動報告

※地域のつながり課でチラシ配布を協力してもらったことで、予想を超える応募があった。

③編集作業の様子



クリエイターチーム紹介



1人ずつ自己紹介



原稿を執筆中



イラスト作成中



見出しのロゴ作成



自分の名前のロゴ作成



編集会議



編集会議

違う小中学校、違う学年の子達だったが、自分の得意なことを活かし、それぞれ自分の役割をもって、冊子の作成作業に取り組むことができた。

参加した子どもたちの編集後記より

もっと鎌倉のことや、鎌倉の他の顔を知りたいです。

小4

これからもっと鎌倉の自然を守っていきたいです。

小5

取材をすることで、鎌倉は笑顔が溢れていることに気づきました。周りの景色が広がったことに誇らしく思います。

小5

これまで、観光というイメージだったが、イメージが変わって、鎌倉の人たちが自然を守るために工夫していることがたくさんあることがわかった。

小5

鎌倉生まれのものを知らなかったですが、取材を通して、鎌倉がもっと好きになりました。

小6

鎌倉の様々な活動を知って、そのことを元に鎌倉がもっと発展してくれるといいなと思います。

小6

実際に見て学んでから鎌倉の自然の大切さがわかった。これからも鎌倉の自然に触れて、もっと調べていきたい。

小6

今後、家の近くや、海、森などのゴミ拾いを少しでもして環境がよくなればいいと思いました。

小6

ことことで鎌倉をたくさん歩いて、鎌倉をたくさん知れて、鎌倉を好きになれました。

小6

山に来る誰かのために無償で整備するなんてすごいと思いました。こういう陰で働いている人がいると思うとカッコいいなと思います。

中2

ただ鎌倉が好きではなく、鎌倉から日本へ広がっていたものを愛し、鎌倉という聖地をより愛したい。

中1

鎌倉は自然豊かで、住んでいる人たちがとてもやさしさに溢れていることが「ことこと」を通して改めて思いました。

中2

活動の成果

市と協働で進めることで、市内の小中学校に募集を行い、偏りなく市内の小中学生を募集できると考えられるから。



校長会を通し、鎌倉全市の小中学校への募集チラシの配布が実現したことで、予想を超える応募があり、広く周知された。

鎌倉市としての取組や、市民活動としての取組について積極的に伝えていくためにも、市と協働で進められると良いと考えた。



取材先の選定において、市民団体や風致保存会など、地域のつながり課が間に入ってくれたおかげで、円滑に取材を行うことができた。

「ことごと」を市の公共施設に設置配布することで、子どもたちの声で市民が気づいていない地域の魅力を伝えることができると考えられるから。



現在配布中。各所より、「子どもたちの鎌倉への思いを感じることができた」という声をいただいている。

地域のつながり課として協働事業で得られた成果

「地域のつながり課がプレゼン時に期待していた効果」

地つなが協働したい理由と協働で期待する効果

- 「ことごと」を作成する過程が、鎌倉市の目指す地域づくりのビジョンを直接かなえる取組であること
- 「ことごと」の作成に携わった子どもたちが、未来に渡って地域づくりの一役を担い、自ら地域課題を解決する意識や土壌を醸成できること



- ★将来、地域に寄り添って課題解決に取り組む発起人が育成される！
- ★今すぐにも、若い力と発想を発揮することに期待！

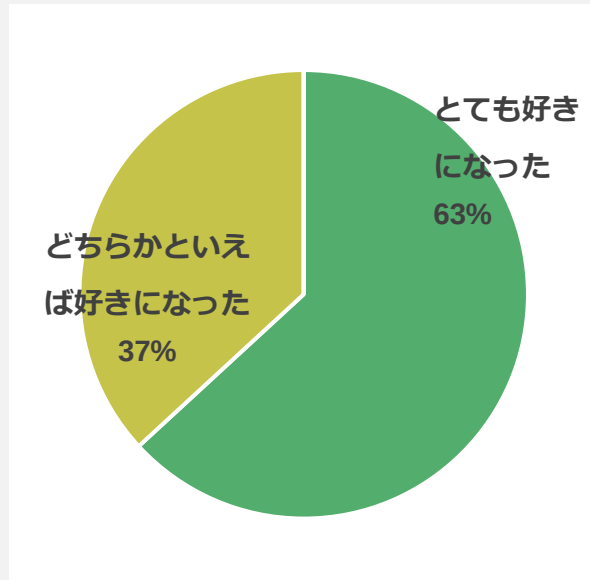


- 地域愛（シビックプライド）の醸成
- 地域の課題解決の発起人の育成

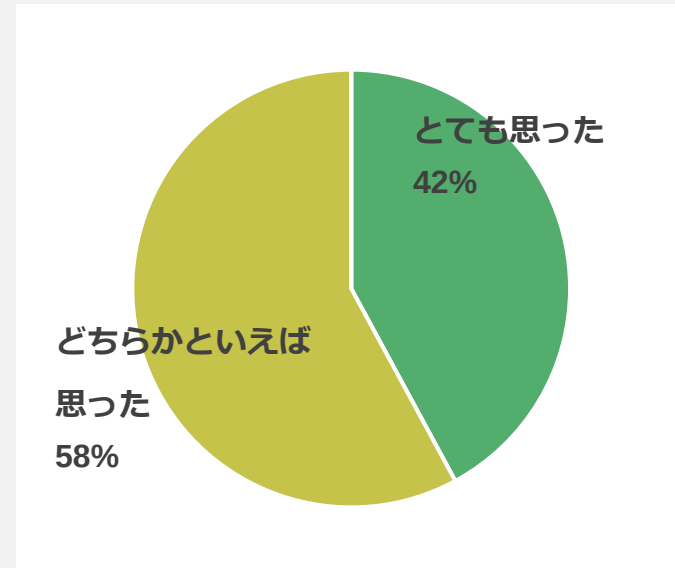
※「市民活動と協働を推進するための指針」で定める具体的施策

- 市民活動に参加したことがない人も、自分ができるところを考えて行動していくための支援を行う。
- 子どもの頃から地域活動に参加し、地域課題をジブンゴトとしてとらえ、自ら行動するきっかけとなる機会の提供に努める

地域のつながり課として協働事業で得られた成果 ～アンケート結果～



鎌倉をより好きになりましたか？



鎌倉のために自分も
・なにかしてみたいと思いましたか？



**学生の地域愛（シビックプライド）が醸成され、
市民活動への機運が高まった**

地域のつながり課として協働事業で得られた成果 ～アンケート結果～

ことごとを作成して、

① 鎌倉のために自分も何かしてみたいと思った理由

- 生き物を守るために自然を守りたい
- ごみひろいをして虫や自然を守りたい
- 鎌倉の人たちががんばって、たくさんの工夫をしていたから
- これからも鎌倉の美しい景色を守っていくためには、景観を守る活動をしていかなければならないと思ったから

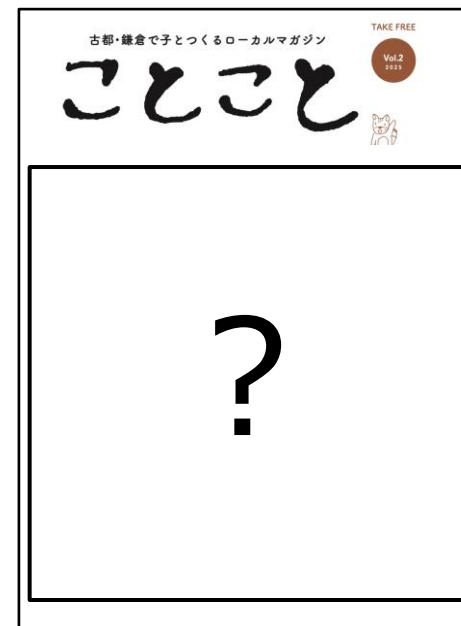
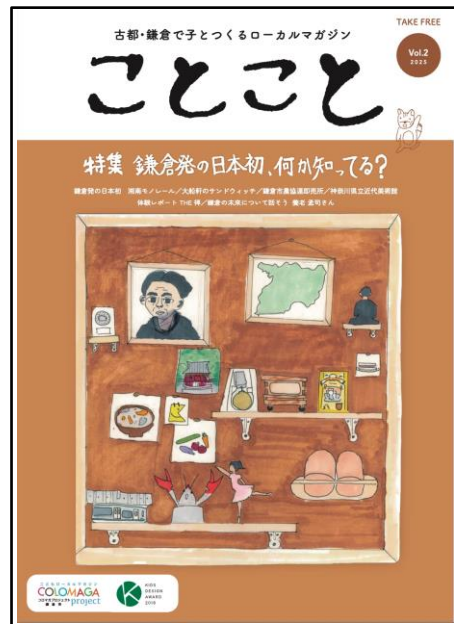
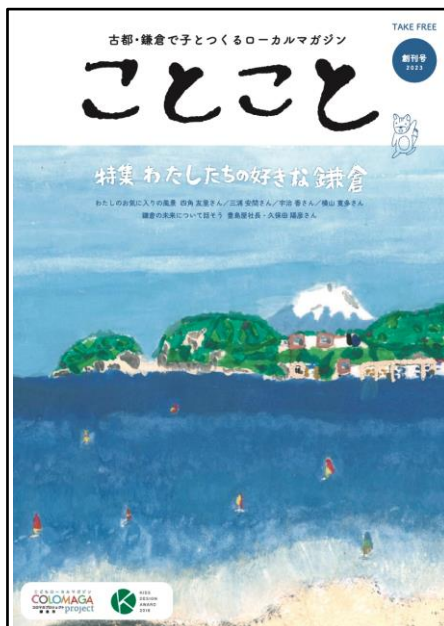
② 「鎌倉が将来こんなまちになったらいいなあ」と思うこと

- 鎌倉が将来、自然豊かなステキなまちになってほしい
- 自給自足ができるまちになったらいい。日本の文化がたくさんあるまちであってほしい
- 鎌倉が大好きな人が鎌倉を動かしてほしい。幸せいっぱいのかみ倉と呼ばれるようなところになってほしい



- 自由記述からもことごとの作成（取材）を通じて、鎌倉のことに関心をもち、鎌倉のためになにかやってみたい！という気持ちを育めたことを確認できる
- 参加した小中学生が、将来鎌倉のために地域活動を始めするための種を植えられた
- 小中学生を対象にした地域愛を育む事業は、地域のつながり課のノウハウだけでは実施が難しいため、協働事業ならではの成果が得られた

今後の展望



- ・ 今後も年1回「ことこと」を制作していき、さらに多くの鎌倉の子どもたちに参加してもらおうことをめざしていく。
- ・ プロクリエイターと出会うことで、子どもたちに多様な生き方や働き方を学ぶ機会を引き続き提供していく。
- ・ 鎌倉市との協働事業ではなくなるが、引き続き、地域とのつながりを大切にしながら、子どもたちの視点で鎌倉の良さを伝えていく活動にしていきたい。



**つながる鎌倉エール事業として
1年間活動させていただき、
ありがとうございました！**